

令和3年1月18日

未来への扉 16

校長 平野 雅仁

みなさん、おはようございます。

1月20日の水曜日は、大寒です。一年のうちでも一番寒い時とされています。2月3日の立春までは、まだまだ寒い日が続きます。太陽の光は本当にありがたいと思います。日も少しずつ伸びて日中も長く・温かくなっていきますが、季節性インフルエンザや新型コロナウイルス感染症対策には、今後も十分注意していきましょう。

さて、第73回 中央区立中学校 生徒作品展覧会が教育センターで、開催されました。書写・美術科・家庭科・技術科など、日頃からのみなさんの成果が展示してありました。どの作品も力作ぞろいで、本当に感心しました。このような状況での開催でしたので、感染症対策など、運営に携わってくださった先生方にも感謝をしましょう。そして、これからも創造的な表現活動は継続して取り組んでいきましょう。

今日は、今年の干支・丑年にちなんで「菅原道真と牛」についてお話します。

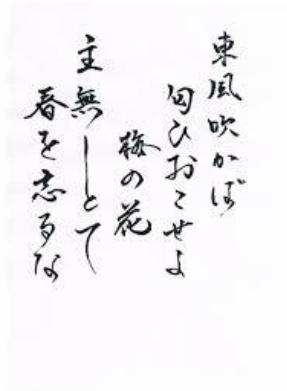
今では学問の神様として祀られている平安時代の貴族・菅原道真ですが、彼の生まれた年・承和2年(845年)6月25日が、丑年であり、亡くなった日が、延喜3年(903年)2月25日の丑の日であったこと、また、宇多天皇に重用され、醍醐天皇の時には、右大臣になりましたが、時の権力者、左大臣・藤原時平をはじめ、有力貴族に嫉まれて、謀反の罪を着せられてしまい九州・太宰府に左遷されてしまったこと、そして、太宰府で不遇のうちに59歳で亡くなった後、亡骸を牛車に乗せて、埋葬しようとしていたところ途中で牛が座り込んで動かなくなってしまい、その場所が、現在の太宰府天満宮の本殿の場所であるということなどを、みなさんは知っていましたか？

牛は、神の使いであり、人を守護してくれる動物とされています。

太宰府天満宮、北野天満宮や文京区の湯島天神などに参詣すると、必ず、牛の像があります。「撫で牛」といって、牛の像の頭を撫でると賢くなるといわれています。今は、感染症対策で直接、撫でることが出来ないかもしれませんが、心の中で道真さんの賢さにあやかりたいと祈ってみてください。



もう一つのエピソードは、菅原道真が京都の都を離れる時に詠んだ歌。



東風吹かば 匂ひおこせよ梅の花 主なしとて 春な忘れそ (大鏡)
東風吹かば 匂ひおこせよ梅の花 主なしとて 春を忘るな (後拾遺集)

歌意は

「春風が吹いたら、匂いを（京から太宰府まで）送ってきておくれ梅の花よ、主人（菅原道真）がいないからと言って、春を忘れてはならないぞ」



まだまだ、梅のつぼみも固いですが、きっと2月には、白梅、紅梅が今年も綺麗に咲いて、みなさんの良い便り、梅の良い香りを届けてくれると思います。
春の訪れまで、もう少しです。頑張りましょう。

(全校朝礼あいさつより)